

競技上の注意（個人戦）

審判長

＜ルールについて＞

- 1 現行の日本卓球ルールを適用する。
- 2 11 点の 5 ゲームスマッチ（3 ゲーム先取）とする。
- 3 タイムアウト制を採用する。ただし、1 マッチに 1 回、1 分以内を厳守すること。
- 4 公認のユニフォームを着用し、今年度の日本卓球協会ゼッケンを着用する。
ゼッケンがまだ届いていない場合は、特例として昨年度のゼッケン使用を認める。

＜進行について＞

- 1 タイムテーブルをもとに、ベンチコール方式によって進行する。
(あくまでも試合予定時刻の目安である。また、当該コートでの実施とは限らないため、放送に注意。)
- 2 1 日目の第 1 試合の審判は別紙審判割当表の選手が行う。以降は、敗者審判による。本線の順位決定戦の審判は本部で指定する。
- 3 男子ダブルス 4 回戦以降ならびに女子ダブルス 3 回戦以降の敗者は進行席にて順次、県大会出場登録を行う。
- 4 1 日目は男女ともにダブルス全部（順位決定戦含む）と、男女シングルス 3 回戦までの試合、2 日目は残り全ての試合を実施予定とする。1 日目の男女シングルス 3 回戦および、県大会出場決定戦までの終了が困難と判断された場合は、放送にて連絡をする。

＜県大会出場決定戦について＞

- 1 男子ダブルス（本戦トーナメント 3 回戦で負けた 32 組から、24 組を選ぶ）
第 1 ステージ 32→16（全 16 試合） 勝者（16 組）は決定、敗者は第 2 ステージへ
第 2 ステージ 16→8（全 8 試合） 勝者（8 組）は決定、敗者は終了
- 2 男子シングルス（本戦トーナメント 3 回戦で負けた 64 人から 48 人を選ぶ）
第 1 ステージ 64→32（全 32 試合） 勝者（32 人）は決定、敗者は第 2 ステージへ
第 2 ステージ 32→16（全 16 試合） 勝者（16 人）は決定、敗者は終了
- 3 女子ダブルス（本戦トーナメント 2 回戦で負けた 24 組から 4 組を選ぶ）
トーナメントを 4 つのブロックに分けて 4 組を選びます。
第 1 ステージ 勝者は第 2 ステージ
第 2 ステージ 第 1 ステージ勝者の 3 ペアで決定トーナメントを行い 1 ペア選出
- 4 女子シングルス（本戦トーナメント 2 回戦で負けた 48 人から 8 人を選ぶ）
トーナメントを 8 つのブロックに分けて 8 人を選びます。
第 1 ステージ 勝者は第 2 ステージ
第 2 ステージ 第 1 ステージ勝者の 3 人で決定トーナメントを行い 1 人選出
- 5 11 点の 3 ゲームスマッチ（2 ゲーム先取）とする。
- 6 対象者は、本部にて本選の結果処理および敗者審判後、決定戦本部席で参加確認を行う。
- 7 決定戦により、県大会出場の権利を得た場合、決定戦本部席にて順次、県大会出場登録を行う。
- 8 決定戦初戦の審判は本選の敗者が行い、以降は試合のない決定戦勝者・敗者で指名する。